

学際的視点に立った 建築と都市の総合デザイン学を開拓

専門知識と先端技術をベースに、学際的視点による建築と都市の総合デザイン学を追究します。建築デザイン、建築・都市史、建築構造、建築環境、建築構法、という5つの分野をバランス良く網羅しています。学部からの進学率が高く、さらに他大からの入学者が多いのも特徴の一つ。規模と実績のある専攻として、長年にわたり多くの人材を社会に送り出しています。また2013年度には、UIA（国際建築家連合）の求める5～6年間の一貫した建築教育に対応したJABEE（日本技術者教育認定機構）建築系学士修士課程の認定を受けました。

本専攻では、建築と都市に関わる専門職業人（建築家・建築技術者）、教育者・指導者、研究者を養成するため、次の7項目の学習・教育到達目標を掲げています。

1. 総合デザイン(Holistic Design)力
2. 建築・都市に関する歴史・文化的知見
3. 持続可能な社会を目指す職業倫理
4. 安心・安全・快適を実現する専門技術
5. 技術と芸術を統合する視点
6. 高度なIT能力
7. 国際的なコミュニケーション能力

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
専門分野に特化した人材、キャリア形成による幅広い人材の育成と、社会人のリカレント教育を重視。これらに対応して修士課程に3コースを設け、それぞれに相応しい人材を受け入れる。1. 選抜1年コース(実績・リカレント対応)、2. 総合2年コース(筆記重視型・作品評価型の両入試方式による専門特化)、3. キャリア3年コース(非建築系卒業者対応)。博士後期課程では学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有する適切な人材を受け入れる。	学生が自ら問題を見だし、解決策を探索、創造できるよう、以下のコースとカリキュラムを編成。1. 学部・大学院の教育一貫性(学部生先取り履修、大学院生学部履修、学部・大学院科目の連番配当)、2. 修士3コースに2系のカリキュラム(技術者・研究者養成のラボ系、建築デザイナー養成のスタジオ系)、3. アーキテクトマインドを育む充実したデザインスタジオ教育、4. 豊富な学内外実習科目、5. 自主的活動に対する単位認定、6. 博士にコースワーク設定、7. 成績評価の公正化・公開制、8. 海外交換プログラム。	各課程において所定の単位とコースワークを履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査と最終試験に合格した者に、修士課程では修士(工学)、博士後期課程では博士(工学)の学位を授与する。これにより、修士課程では総合デザイン力を身に付けた建築・都市デザインに関する高度な専門職業人、博士後期課程ではさらに高度な企画開発能力を有する教育者、研究者、指導者(専門特化型人材)として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
赤松 佳珠子 教授	建築設計、意匠	建築空間は、人々の活動を支えると同時に、さまざまな行為を誘発する場でもあります。建築や都市空間をさまざまなフルイド(流動的要素)を通して捉え、新しい時代に向けての建築空間の在り方を探ります。	デザインスタジオ3/9/11、デザインスタジオX、建築インターシップ、海外研修プログラム1、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2
網野 禎昭 教授	建築構法、木造デザイン	建木材の創造的活用	デザインスタジオX、建築インターシップ、海外研修プログラム2、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
安藤 直見 教授	建築計画、都市計画	さまざまな建築・都市(例えば、広場とか街路とか)の形態と、その形態が現象させる空間の特質・特性	空間解析特論、建築計画分野研究論考、デザインスタジオ11、建築のしくみ、デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
岩佐 明彦 教授	建築計画	建築・都市空間の使われ方やそこで人の振る舞いに着目し、場所の持つ機能や魅力を高める手法を研究・実践する	建築計画学概論、デザインスタジオ3/4/9、デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
川久保 俊 准教授	建築環境工学、都市環境工学	サステナブル建築の普及促進方策の検討、公開統計情報に基づく世界の都市の環境性能評価	特殊環境特論、デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1、建築学修士プロジェクト1
北山 恒 教授	建築設計、都市デザイン	建築デザイン、都市のリサイクル、脆弱市街地研究	デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1、建築学修士プロジェクト1、デザインスタジオ8
下吹越 武人 教授	建築設計、意匠	建築や都市に内在する人間的・文化的現象を解析し、未来を指向する持続性を備えた建築デザインの手法を探索する	デザインスタジオ4/10/11、デザインスタジオX、建築プロフェッショナル総合演習1/2、建築インターシップ、海外研修プログラム1、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
高村 雅彦 教授	建築史、都市史	日本を含むアジアの都市史および建築史研究。詳細は以下の研究室ホームページへ。 http://takamura-lab.sakura.ne.jp/	空都市解説方法特論、近現代建築史、建築史分野研究論考、デザインスタジオ11、デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1/2、日本建築史風土と建築、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
出口 清孝 教授	建築環境工学、建築設備	エコロジカルな建築の創造	設備計画概論、建築設備特論、デザインスタジオ8、光・視環境、建築環境分野研究論考、サステイナブルデザインデザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
浜田 英明 准教授	建築構造学、構造設計	包括的な構造設計手法や理念の探求	デザインスタジオX、建築構造設計演習、建築インターシップ、建築構造デザイン、海外研修プログラム2、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2
宮田 雄二郎 講師	建築構造	建築構造工学研究室:循環型社会を目指し、環境負荷低減と自然との共生を実現するため、木質構造を研究する。中大規模、高層木造を実現するため、耐震設計法を探究し、また木質材料と鉄骨、鉄筋コンクリートとのハイブリッド構造の有効性を研究する。	建築インターシップ、デザインスタジオX、建築学修士プロジェクト1/2
吉田 長行 教授	建築構造学、地震工学	建物と地盤系における動的相互作用・波動伝播・動的崩壊・耐震安全性	地震工学概論、構造解析特論、建築構造分野研究論考、材料の力学、デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
渡邊 眞理 教授	建築設計、都市デザイン	現実の建築空間や都市空間は人間の行為と密接に関連している。リアルな建築、リアルな都市から学ぶことでデザインの可能性を広げたい	建築設計特論、アーバニズム、デザインスタジオ10/11、海外研修プログラム1、海外研修プログラム2、建築計画分野研究論考、デザインスタジオX、建築インターシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

赤松 佳珠子 教授

建築や都市空間をさまざまな要素を通して捉え、新しい時代に向けての建築空間の在り方をさぐります

建築や都市空間をアクティビティ・光・風・音など、さまざまな要素を通して捉えます



建築空間は、人々の活動を支えると同時に、さまざまな行為を誘発する場でもあります。建築の内外を取り巻く環境や空間をアクティビティ(人々の活動)・時間・光・風・音…など、さまざまなフルイド(流動的要素)を通して捉えます。建築とは「もの」から生まれる「こと」と「ひと」との関係を考えること。建築とは「もの」ではなく、「出来事である」という考え方をベースにさまざまな研究や活動を行っています。学生たち自身がどのように建築や社会と関わっていくのか。何をテーマに具体化していくのか。学生自らが主体となってさまざまな課題を設定し取り組んでいます。

※本専攻には、このほかに建築デザイン、建築構造、建築環境、建築構法などの分野を扱う、全部で13の研究室があります。

学生・修了生の声

三浦 康平

修士課程 2017年度修了

学部生の頃から
研究し続けていた
内容を活かし
都市整備に携わっています



進学のかきかけ

学部生の頃に、2020年の東京オリンピック開催に伴う新国立競技場建設問題や、東日本大震災の復興活動など建築と都市の関係性について考えなければならぬ問題がメディアなどで大きく取り上げられ、建築と周辺の都市環境の変化について深く学修したいと思ったことが進学を決意したきっかけです。

現在の業務

現在は住民と行政などの間に立ち、まちづくりを支援する業務についています。まちづくりは、住民の多様な意向を把握しながら、その方向性をまとめていくことが重要です。まちの課題を発見し、地域独自のルールを策定して行くことは、街の新しい魅力を見出すことにもつながり、やりがいがあります。

研究テーマ

団地とその周辺地域を包括的に再生するための手法

修士課程

建築計画学概論(2)
近現代デザイン概論(2)
環境工学概論(2)
景観デザイン概論(2)
地域・都市再生概論(2)
環境技術英語(2)
知的財産権論(2)
現代産業論(2)
海外研修プログラム1(3)
海外研修プログラム2(3)
設備計画概論(2)
建築史概論(2)
地震工学概論(2)
鉄筋コンクリート構造概論(2)
建築構造力学特論(2)
曲面構造特論(2)
構造解析特論(2)
特殊環境特論(2)
建築設備特論(2)
都市解説方法特論(2)
建築設計特論(2)
建築思潮特論(2)
空間解析特論(2)
住宅計画特論(2)
都市形成史特論(2)
デザインスタジオ8～11(各6)
デザインスタジオX(2)
建築プロフェッショナル総合演習1/2(各4)
建築インターシップ(8)
建築構造デザイン(4)
建築学修士研修1/2(各2)
建築学修士プロジェクト1/2(各3)
特別研究(2)

※この他に、修士課程キャリア3年コースに学部合併科目20科目を設置。

※デザインスタジオ11:飯田善彦大学院客員教授が主に担当する修士設計のためのスタジオ系科目。

博士後期課程

建築構造分野研究論考(2)
建築環境分野研究論考(2)
建築計画分野研究論考(2)
建築史分野研究論考(2)
建築学博士研修1/2(各2)
建築学博士研修3(3)
建築学博士プロジェクト1/2(各2)
建築学博士プロジェクト3(3)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了生の研究テーマ

- ・日欧に観る水の聖地
一信仰・建築・都市からの複合的考察一
- ・これからの地域圏を想像してみる
一犬玉村での活動と建築計画案一
- ・街に顕れる修学の環
一遊戯道路を指標とした人間のための街路の構築一
- ・土地所有形態から考察する都市のリサイクル
一東京の木造住宅密集地域におけるケーススタディー
- ・木タガ接合による Brettstapel の挙動解明と解析モデルの提案
- ・RCシェルの高剛性化を目的とした異方性CFRP板の最適補強配置